



たけだ いちか ちゃん
(6さい)

おはなさんに なりたいの。おみせには いろんないろの パラを たくさんおきたいな。おうちでもよく おはなを かざっているよ。



摩周丘幼稚園のおともだち



かなざわ けんたくん
(6さい)

カブトムシや クワガタとか むしが だいすき。まるせつぶの こんちゅうかんにも よく いくよ。おおきくなったら こんちゅうかんではたらきたいな。

がんばっているあなたがすき

シリーズ・ひと

虫も絵を描くことも大好き

とんぼの未来・北の里づくり写真・絵画コンテスト2010
絵画部門 小学校低学年の部で優秀賞に輝いた

大河原 樹君(和琴小1年)



入賞作品はこちら
とんぼの未来・北の里づくりホームページ
<http://www.do-nouchimizu.com/>

道内の小学生を対象とした「とんぼの未来・北の里づくり」絵画コンテスト(北海道農地・水・環境保全向上対策協議会主催)。小学校低学年の部には194点の応募があり、最優秀賞1点、優秀賞3点、入選10点が選ばれましたが、見事優秀賞に輝いたのが大河原君です。

「絵が大好きで、特に虫の絵を描くのが好きです。クワガタやセミの絵をよく描きます。折り紙でヘラクレスオオカブトを折るのも得意です。今回も、クワガタを描きました。」

コンテストは、地域の活動や農村風景、農村の生き物をテーマにしたもの。大河原君の絵は「キャンプでクワガタをとったんだ!」と題し、自分と大好きなクワガタがダイナミックに生き生きと描かれています。担任の大野孝喜先生にお話を聞きました。

「今回の絵は、コンテストを狙ったわけではなく、通常の授業の一環として『夏休みの話題』というテーマで描いてもらったものです。大河原君は絵を描くのが好きで、迷わずに描き始めます。虫をはじめ自然が好きで、どんな課題であっても自然をテーマに絵を描くことが

多いですね。和琴小学校という恵まれた自然環境の中にある学校ということもあり、生活科などで自然と触れ合う学習も多く取り入れています。大河原君はとても楽しそうです。また、絵について大河原君のいいところは、描きたいものを大きく大胆に描くところですね。

普段から自然をよく見つめている大河原君だからこそ、描けた絵だったのでしょ。教室に飾ってあったほかの絵も、どこかに必ず生き物が描かれています。優秀賞と聞いて、大河原君はどんな気持ちでしたか。

「僕は賞のことはあまりよく分かりませんでした。でも、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんがとても喜んでくれたので、すごいことなんだなと思ったし、うれしかったです。札幌での表彰式にも行きましたが、あまり緊張もしませんでした。」

「2歳くらいから家族でキャンプに行っているし、キャンプでは必ずクワガタとりをします。お兄ちゃんが2人いるけど、クワガタとりは僕が一番上手です。虫も絵を描くことも大好きなので、これからもずっと続けていくと思います。」

漢詩や和歌などに独特の節をつけて吟ずる詩吟。詩吟に親しんでいるサークルは町内にたくさんありますが、今回は泉吟詠会の皆さんをご紹介します。設立は1986(昭和61)年2月1日。今年で25周年を迎えました。会員は全て男性という、ちょっと珍しいサークルです。



泉吟詠会の皆さん
前列左端が会長の武藤さん、前列中央が指導者の須田さん

設立のきっかけは、現在の指導者を行う須田文男さんが知人に誘われたことだそう。5人でスタートしましたが、ほぼ初めて詩吟に親しむ方ばかりだったそうです。「お祝いの席などで詩吟を聞くと『ああ、いいなあ』と思うものの、まさか自分がやるとは思っていませんでした。須田さんでも、始めたからには何事にも一生懸命と、会長と会計など会をまとめる仕事を引き受けながらも、詩吟にも精進してきました。」

設立時のメンバーで残っているのは、現在須田さんだけ。会員も入れ替わりを繰り返して、長い方で8年くらいのことです。以前習っていた詩吟を14年ぶりに学び始めて、5年になるという方も。詩吟の大会に出たり、試験や審査があったりと大変なことも多々あるそうですが、男性だけというまとまりのよさを生かし、楽しく活動しています。「年数の差はあっても誰かが威張るわけでもなく、和気あいあいと楽しく学んでいます」と、皆さん口をそろえて話していました。

会長の武藤さんは、会の今後について「詩吟ばかりではなく、例えば町のことであったり、時事の話であったり、いろいろなことを楽しく学びながら、お互いに吸収し合い、切磋琢磨し、人間としても高め合っていけるような会にしたいです」と話し、会員の皆さんも大きくうなずいていました。



(社)日本詩吟学院岳風会北釧路支部
泉吟詠会
会長・武藤 隆 園 さん
会員・10人



お稽古の様子